


株式会社 九州クボタ化成

1.事業概要

住所	〒820-0062 福岡県飯塚市目尾字境田 515-10	
従業員数	40名 (H29(2017).4.1現在)	
敷地面積	14,506 m ²	
事業内容	硬質ポリ塩化ビニル管・水道用ポリエチレン管・電力ケーブル保護管等の製造	

主要製品

水道用 VP管・HI・VP管(耐衝撃性管)・SGR-NA管(ゴム輪受口付)・HI・SGR-NA管
 一般用 VP管・HI・VP管・SGR-NA管・HI・VP系 SGR-NA管・VH系 SGR-NA管
 無圧用 VU管(薄肉管)
 電線用 VE管・耐候二層電線管(電線管)
 下水用 SGR-NC管(下水道用)
 スーパー・フレックス(電力ケーブル保護管)
 V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)
 水道用ポリエチレン管(二層管)
 水道配水用ポリエチレンパイプの加工

工場変遷(沿革)

昭和55年	(1980)	操業開始 JIS表示工場として認可(JIS K 6741・K 6742・C 8430)
昭和56年	(1981)	日本水道協会の検査工場として認可 日本下水道協会の下水道用機材製造工場として認可
昭和59年	(1984)	日本水道協会の指定検査工場として認可
昭和60年	(1985)	SGR-NA(ゴム輪受口付き管)生産開始
昭和63年	(1988)	スーパー・フレックス(塩ビ強化可とう管)生産開始
平成 2年	(1990)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)生産開始
平成 4年	(1992)	水道用ポリエチレン管 日本水道協会の指定検査工場として認可
平成 5年	(1993)	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成 6年	(1994)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管) JIS C 3653(施工方法)管種に認定
平成 8年	(1996)	本社事務所兼厚生棟新築及び工場棟増築竣工
平成11年	(1999)	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210) HI管(耐衝撃性管)生産開始
平成14年	(2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年	(2003)	ISO14001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年	(2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成21年	(2009)	ISO9001 認証 2008年版へ移行
平成22年	(2010)	ISO14001 クボタシーアイ株式会社とEMS統合(現、株式会社クボタケミックス)
平成27年	(2015)	水道配水用ポリエチレンパイプのバット融着加工開始

株式会社 九州クボタ化成

2.環境方針

ISO環境方針

株式会社クボタケミックス及び株式会社九州クボタ化成は、合成樹脂を原料として、社会生活に必要な水道管、下水道管などのライフラインを社会に提供しています。その活動において、地球環境の保全が人類全体の課題であり、企業にとってその対応が重要な責務である事を認識し、環境保全に不断の努力を行います。

理念

- ・私たちは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざします。
- ・私たちは、環境に配慮した企業活動・製品・技術を通じて、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

方針

1. 製品の設計・開発、生産、販売、物流、サービスまでのすべての段階において、環境保全に積極的に取り組みます。また、環境マネジメントシステムを導入し、自主的・具体的な目標と行動計画を定めて、日常の業務を推進し、継続的に改善する事によって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
2. 社会の持続的な発展に寄与できる製品の開発ならびに製造を推進するとともに環境リスクの低減及び環境汚染の未然防止に努めます。
3. 自然環境や生物多様性に配慮した企業活動に努めます。
4. 環境関連法、条例、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、取引先に対しても、環境保全活動への理解と協力を求めます。
5. この環境方針を実践するため、環境保全中期実施計画達成に向けて、その実施状況を定期的に確認し、環境マネジメントプログラム計画の見直しを行います。
6. この環境方針を、当社で働く人、当社の為に働く人 及び 取引先に周知させると共に、各人が日常生活においても環境に配慮した行動を行うよう、環境意識の向上に努めます。
7. 地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。また、この環境方針は、私たちの姿勢を理解していただくため、一般の人にも入手可能とします。

平成29年5月1日

株式会社クボタケミックス
製造部門 担当役員

汲田 康昭

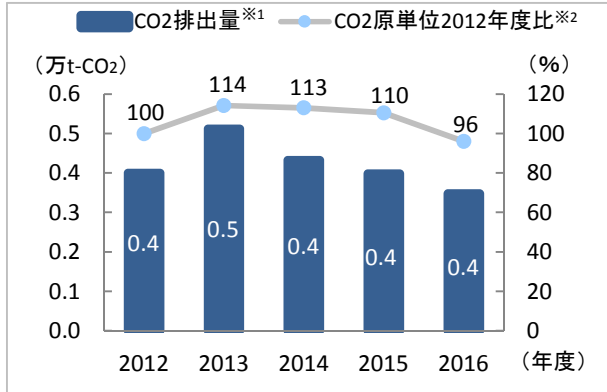
ISO認証取得状況

平成11年(1999)	ISO9001 認証登録 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成14年(2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年(2003)	ISO14001 認証登録 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年(2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成23年(2011)	ISO14001 クボタシーアイ株式会社(現、株式会社クボタケミックス)とEMS統合
平成27年(2015)	ISO14001 更新審査受審(問題なく登録継続)

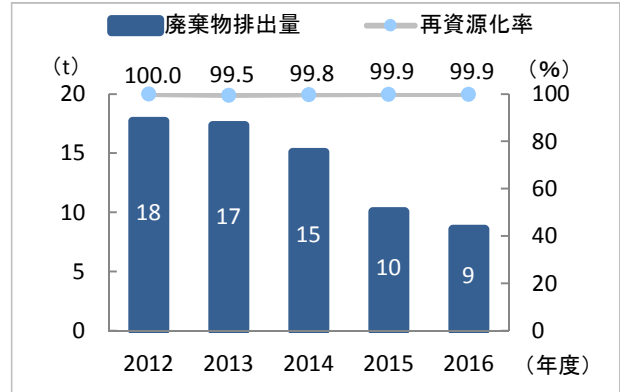
3.環境パフォーマンス

(1) 主要な環境指標の推移

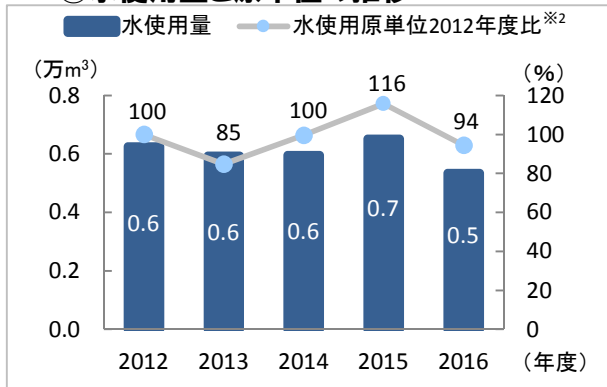
① CO2排出量と原単位の推移



② 廃棄物排出量と再資源化率の推移



③ 水使用量と原単位の推移



※1 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

※2 2012年度における内作生産金額あたりの排出量(または使用量)を100とした場合の指数

※3 報告対象期間:2012-2015年度は4月1日から翌年3月31日の集計、2016年度は1月1日から12月31日の集計

(2) PRTR法対象物質集計結果(2016年1月~12月)

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
239	有機スズ化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
305	鉛化合物	12	0.0	0.0	0.0	0.0	24

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

株式会社 九州クボタ化成

4. サイトデータ(2016年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	1,696
水使用量	万m ³	0.5

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	3,476
----------------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SOx	—	ばい煙発生施設なし		
	NOx	—			
ばいじん	—				

排水量	公共用水域	万m ³	—
	下水道	万m ³	0.2
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	—	—
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		窒素	mg/l	—	—
		りん	mg/l	—	—
		六価クロム	mg/l	—	—
		鉛	mg/l	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
		下水道		pH	最小値, 最大値
BOD	mg/l				
COD	mg/l				
SS	mg/l				

廃棄物排出量	t	9
再資源化率	%	99.9

VOC排出量	t	—
--------	---	---

5.環境トピックス

- 1) パイプ切断作業で発生する切粉は、床に落ちて一般ゴミと混ざる為、産業廃棄物として処分していたが、切断機下に設置した切粉回収パンの改造により有価物へと改善することができた。
- 2) 全事業所の水銀灯・蛍光灯は、2016年に策定したLED化3カ年計画(2016~2018)に基づき、順次LED電灯に更新中であり、CO2削減に効果をあげています。
- 3) 2016年は、新規に作成した緊急事態訓練の手順(工程水のオーバーフロー)に基づき、全従業員を対象に緊急事態訓練を実施し、意識の高揚を図りました。



- 4) 会議室、事務所、食堂の暑熱対策及び冷房効率のアップを図る為、外部に接した窓全てに、遮光フィルムを設置しました。

6.環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 グリーンヒル工業会での清掃活動
日 付 毎月、1回
参加人数 12名

グリーンヒル工業団地内の企業が
各社1名を派遣し、周辺の道路清
掃活動を実施



グリーンヒル工業会での清掃活動